

大きくなれ

串間・大平小児童 稚魚を放流

串間市・大平小(谷口弘之校長、11人の全校児童が8日、魚約300匹、モクスガニ



ウナギの稚魚を放流する大平小の児童

00匹を放流した。市淡水漁業協同組合(河野日出男組合長)が水辺環境の大切さを伝えよ

うと、市内の小学校を対象に毎年実施。児童は「大きくなれ」と声を掛けながら放流した。

組合から5人が参加。大平小出身の河野組合長(64)が「昔は大平川にたくさん魚やカニが生息していたが、少なくなつた。再び生物の多い川になるように、みんなで環境のことを考えましょう」とあいさつ。その後、児童は川に設置した横3尺、縦6尺の網に入つたウナギのつかみ捕りに挑戦。最初はぬるぬるすべつて悪戦苦闘していたものの、次第に慣れ「捕れた」と

歓声を上げていた。

最後にウナギとモクスガニを一齐に放流。川に入つていくウナギに手を振る児童の姿も見られた。6年の黒木愛優さん(11)は「放流体験は初めてで、ウナギを捕まえるのが楽しかった。元気に大きく成長してほしい」と話していた。

25.7.15
宮日